

令和6年度 「東海村まちづくり出前講座」

ぜひご利用ください♪



「東海村まちづくり出前講座」は、村の行政について、もっと知りたい、勉強したい、考えたいなど、さまざまな団体の要請に応じて、皆さんの学習の場に役場の職員を講師として派遣するものです。

期日▼通年(12月28日～1月4日を除く)

時間▼午前9時から午後9時までの2時間以内

場所▼村内公共施設等(会場は村内限定)※会場の手配や準備は、各団体でお願いします。

対象等▼村内在住・在勤・在学で、5人以上で構成される団体

内容▼村について学べるほか、減塩や熱中症予防、防犯、消費生活など、さまざまな講座があります。※講座メニューは政策推進課(役場行政棟3階)や各コミュニティセンター、村立図書館に備え付けてあるほか、村公式ホームページからもご覧いただけます。

費用▼無料 ※施設の使用料や村で準備できない材料等については、各団体の負担となります。

申し込み▼所定の申込書に必要事項を記入の上、講座実施希望日の14日前までに、講座の担当課へ申し込みください。※▽申請書は村公式ホームページからダウンロードできます。▽講座の実施日は、講師の都合等により調整させていただく場合がありますのでご了承ください。

問い合わせ▼政策推進課計画調整担当(☎282-1711 内線1306)



▲HPはこちら

村では平成26年度から、「地域社会と原子力」をテーマに、社会科学の視点でこれからのまちづくりを考える契機となるよう、若手研究者への支援事業を続けてきました。事業開始から10年目を迎えるにあたり、これまで支援した研究者からの報告や東海村へのメッセージを、リレーエッセーの形式でお伝えします。

【地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業】リレーエッセー

若手研究者からの メッセージ

支援事業の選考にあたって

選考委員長
(常磐大学教授)

松原 克志

本事業は、私たち研究者の視点から見ても大変ユニークな事業です。研究にはどうしても研究費が必要です。学術的な研究の研究費というと科学研究費補助金(科研費)が有名ですが、これは国の予算です。市町村が学術的な研究の支援をする本事業は、極めてまれな存在です。

研究者から見て大変ありがたい研究支援ですが、その原資は納税者である住民によるものです。たとえ学術的・基礎的な研究といえども、その成果は住民に還元されなければなりません。では何をもって



住民への還元と言えるか、それが選考にあたって私が意識したことです。とはいえ、研究ですから住民の意向を忖度するものでもありません。原点に立ち返ると本事業は「オープンな議論の場づくり」を目的の一つにしています。そこで選考にあたり重視したのは「この研究がどのようにオープンな場づくりに貢献しうるか」という点です。

これは、もしかしたら申請されてきた研究内容を越えた要求かもしれません。なぜなら本来、学術的な研究は、研究者の知的好奇心に基づくものだからです。しかし、学術的な研究に加え、研究者の知的好奇心に基づく研究成果をどのように活用したら「オープンな議論の場づくり」になりうるかを住民と一緒に考えてもらいたかったので、研究者自身にもその内容を越えて提言していただきたいと思いました。そして、専門家、非専門家という二分法ではなく、誰もが対等な立場に立つことも意図しました。結果的に採択された研究者の皆さんにはご負担をかけたかと思いますが、どの研究も「オープンな議論の場づくり」に真摯に対応していただいたものと思います。

【問い合わせ】産業政策課産業政策推進担当(☎282-1711 内線1269)

※【お詫びと訂正】「広報とうかい」(4月10日号)で紹介した執筆者の肩書に誤りがありました。お詫びして訂正します。

【正】… 寿楽 浩太(東京電機大学教授)